



ふれあい市の代表新垣末子さん、いつも明るくお客さんに接してくれます



店の軒下には地元で採れた新鮮な野菜が並んでいます



マンゴーやドラゴンフルーツなどから作ったジャムやジュース



特産品づくりに励む神谷美枝子さん(中央)としらかわファームのスタッフ

「市に合わせ、地産地消の野菜を前日の夜中に出荷するから、すごく新鮮。葉野菜も束が大きくて栄養もたっぷり。」と太鼓判を押す新垣さん。この市を、楽しみながら、浦添市など町外から通う人も少なくありません。食べ方

土

曜日早朝、新城の若松通り「金ちゃん」前には、新鮮な野菜を求め多くのお客さんが訪れます。平成二十一年で十一年目を迎える「新城ふれあい直売市」は、生活改善グループが中心になって、催す生産農家と消費者が直結した地域密着型の定期市。代表の新垣末子さんの自宅一階の加工所を開放して野菜や果樹、花や加工品、手作り品を販売する土曜のおなじみの朝市として、すっかり地元で定着しました。朝早くからお客さんが来店し、午後にはほとんどの商品が売り切れしてしまうほどの人気です。

舞台7 地産地消

新鮮な食材が揃う
新城ふれあい直売市

地産地消で生産者と消費者の距離を縮め、地域を元気に

舞台6 商・工業

特産品づくりに励むしらかわファーム

無駄にしない心から特産品づくりに意欲を見せる

近年、八重瀬町は、土地の画整理区域内を中心にスーパーや飲食店が進出し、広域的な商業活動が展開しつつあります。また、工業も泡盛、黒糖、染物、加工食品、資源リサイクル品など幅広く行われ、商工業ともに活気づいています。特に農業や水産業が盛んな本町においては、地元農水産物を活用した加工品などの特産品づくりが期待されています。

特産品の開発・販売で事業展開するしらかわファーム、代表の神谷美枝子さんは、農業を営む傍ら地元農産物を積極的に使用した加工品づくりに力を入れて、人物です。これまでジャムやゼリー、ドラゴンフルーツなど様々な商品を打ち出してきました。「規格外で出荷できない野菜や余った果樹など、

食べられるのに廃棄処分になる農産物がたくさんありました。それらを有効利用しようとする特産品づくりに取り組んでいます。」と神谷さんは話します。現在は、まちの祭りや商工会が開く物産フェアにも積極的に参加しながら特産品を紹介しています。「消費者と直接ふれあうことでニーズや流行の商品を知ることができるので日々勉強できます。」と研究に余念がありません。しかし、流通と販路の体制がまだ十分とは言えない八重瀬町では、作った商品が売れ残ることも少なくないと厳しい事情を抱えています。神谷さんは、「町内外へ地道にPRしながら地元農産物にこだわった特産品づくりを頑張っていきたい。」と課題を受け止めながら前向きな姿勢を見せています。



マンゴーやドラゴンフルーツ、パッションフルーツなど彩り鮮やかな果物が販売されています



市を切り盛りする明るく元気な女性グループたち



を教えあったり、次回のリクエストをしたり、食べた感想を話したりなど、気さくな近所づきあいのような会話が交わされています。「楽しみにしてくれる人がいるからやりがいがある。女性が店を切り盛りし、裏方ではお父さんたちがしっかりと支えてくれる。それがこの市の特徴です。」と新垣さん。市の名称にもなっているよう

に「人とのふれあい」を大切に、みんなで協力しあって地域を良くして行こうという気持ちも伝わってきます。また、その情熱が波及し、地域の行事等もますます活発になっていく様子。新城ふれあい直売市の活動が、生産者と消費者の距離を縮め、交流の機会を提供し、地域を元気にしています。